福島の子どもたち 夏満喫

「石炭の層 固かった」 夕張

【夕張】夕張の市民団体の招きで、自然豊かな夕張で夏休みを過ごしている福島県の5家族が9日、市内の石炭博物館を見学した。

東日本大震災の被災者を支援する市民プロジェクト「夕張夢再生館」が招いた。昨夏に続き2回目。

5家族は生後9カ月～小学6年の子どもたちと保護者の計16人。石炭博物館では展示物の石炭を珍しそうに触り、ヘルメットをつけて模擬坑道を歩いた。

初めて夕張に来た福島市の黒須愛華さん（瀬上小2年）は「坑道は暗くて怖かったけど、後から慣れた。石炭の層は冷たくて固かった」と話していた。一行はこの後、市内のメロン農家を訪問した。

福島の親子は6日に夕張入り。11日に帰路についた。（町田誠）

石炭博物館を見学した福島の子どもたち

流しそうめんに歓声 深川

【深川】多度志などに滞在中の福島県の親子26人が9日、多度志農産物検査場で、地元の子どもたち20人といっしょに流しそうめんを楽しんだ。

一行は「子どもたちを放射能から守る宗教者ネットワーク」の協力で、会津放射能情報センター（福島県会津若松市）が募集。5日から6日間の日程で、上川管内幌加内町と多度志に滞在し、朱鞠内湖で遊んだり、深川市立病院で甲状腺検査を受けたりしてきた。

この日は地域住民らでつくる「たどしこぶしの会」が、流しそうめんを企画。子供たちは「もっと流して」「取れない」などと大はしゃぎしながら、同会が用意した竹筒を流れるそうめんをすくい取っていた。

10歳と3歳の兄弟を連れて参加した会津若松市の主婦(39)は「福島では不安で外遊びはさせていないが、こちらでは生き生きしています」とホッとした表情だった。

一行は10日に福島県に戻った。（草間康弘）

流しそうめんを楽しむ福島と多度志の子供たち